



「鍼灸」は「効果」があるのか？

第8回 通電鍼治療のすすめ 1

琉球治療院 関 忠雄

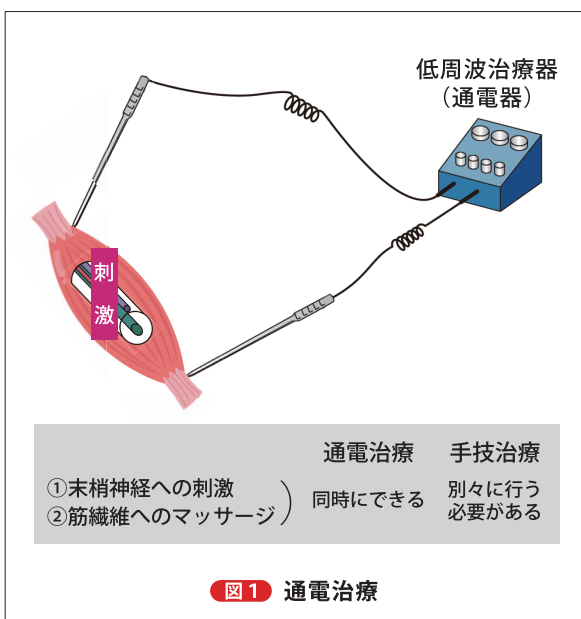
1・通電鍼治療とは

恩師の倉島宗二先生（1911～1995）は優れた知性の持ち主ですが、ときには間違っこともありました。倉島先生が唱えた「神経線維切断説」は抜歯した子供が顔面神経マヒを発症したことから始まりました。ある医師が「これは神経線維を切断したものだ。はり師の使っている鍼も注射針と同じく神経線維を切断する」と発言しました。この発言から倉島先生は、普段から考えていた鍼灸の奏効（治療のききめがあらわれる）原理は神経線維切断と捉えました。倉島先生の提唱した理論は現在でいえばペインクリニックの「神経ブロックの理論（結合組織を切って直接神経組織に薬剤を加える）」に当たります。神経ブロックの原理は「神経線維切断説」でいいのですが、はり師が使っている鍼の原理は「神経線維刺激」ではなく「神経線維切断」です。

- 77号の本欄で書きましたが「通電治療」以前の手技は
- ① 単刺術：そのまま一本の鍼で刺入する手技。
 - ② 雀啄術：鍼を刺入した後で雀が餌を啄むように抜き差しする手技。
 - ③ 置鍼術：鍼を刺入した後そのまま置いておく手技のみでした。
- しかし、これらの手技では神経線維を刺激するだけで、筋線維を刺激することができません。「通電治療」

は鍼と通電器の低周波で神経線維を刺激しながら同時に筋線維をも振動させるのです。これは今までの手技と大きく異なり、同時に二つの刺激を加えることができるので優れているのです。

日本のはり師はこの手技を標準装備していないために、世界の鍼灸に40年遅れをとっていると考えられます。鍼灸養成所の教科書には「通電治療」が書いてありますが、実際の手技を教えないのですから頭で知っているだけで実際には使えません。使っていれば多くの疑問が出てきてそれを考える機会が生まれます。しかし以前の手技を漫然と繰り返しているだけなので鍼灸の進歩を期待できません。鍼灸の原理を考えその実際の応用分野を考察する鍼灸師を育成する必要性を近年特に感じます。





関 忠雄 Tadao Seki

- 1949年 長野県生まれ
- 1973年 中央大学法学部卒業
- 1978年 早稲田鍼灸専門学校卒業／倉島宗二師に師事 臨床鍼灸学を研修
関鍼灸治療室を開設
- 2003年 新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経(自律神経:迷走神経)解剖を研修
- 2005年 佐野動物病院にて獣医学を研修
- 2006年 名古屋市れもん鍼灸接骨院院長
- 2013年 アルゼンチン(F・バレイラ)鍼灸院院長
- 2018年 アルゼンチンから帰国
- 2019年 琉球治療院勤務

2・通電治療の現状

私が倉島先生の所で鍼灸の勉強を始めたときは、倉島先生は普通に通電治療を使っておられました。その前の早稲田鍼灸専門学校時代には通電治療をしていた記憶がありません。今考えると鍼灸の専門学校の鍼灸治療と倉島先生のもとの鍼灸治療は全く違う原理だったようです。

2018年にアルゼンチンから日本へ帰ってきて横浜の鍼灸マッサージの会社へ入社したとき、それまでに行っていた治療のための鍼灸の世界とはあまりに違っているので面喰ってしまいました。その一つは基礎研修のセミナーでほとんどのはり師が鍼を深く刺さないことでした。それを見て私は愕然としてしまいました。その後、沖縄の訪問鍼灸マッサージの会社へ入社して冷静にそのことを考察してみると、日本の鍼灸は原理的にヨーロッパ医学の世界が変わってきていることに気がつきました。

現在の日本には二つの鍼灸の世界が存在しているようです。一つは治療のための鍼灸。もう一つはヨーロッパ医学に組み込まれた訪問鍼灸マッサージのリハビリテーションのための鍼灸です。この二つの鍼灸は施術している施術者は同じように思っていますが全く別のもので、鍼灸接骨院での鍼灸治療が、私が勉強していた頃の治療のための鍼灸に近いように思われます。

話がそれました。通電治療は鍼灸接骨院の先生が行っているようですが、訪問鍼灸師は限られた人しか使われていないようです。日本全体では通電治療をしているはり師は少数派のようです。

私が倉島先生の所で勉強を始めたころに先生に「通電治療をされるのはなぜですか？」と聞いたことがあります。先生はそのとき「便利だから」と答えられました。通電治療にそれ以上の意味があるのではないかと思い始めたのはだいぶ経ってからです。患者さんの家に往診に行ったときに通電器の電池が切れてしまい、以前の手技鍼で治療したのですが、通電治療とは感じが違います。それでいろいろ考え、通電治療は鍼の刺激と同時に通電器で発生させた低周波で筋肉を振動させてマッサージの効果も得られるのだと思ひあたりました。腰痛の施術でも通電治療で筋肉を振動させたときはその後の効果が違います。今までの手技鍼での施術と比べて振動をさせた通電治療はより愁訴の軽減が期待できます。訪問鍼灸の施術者はほとんど通電治療を行っていません。いまだに多くのはり師は以前と同じ旧態依然とした手技のように思われます。多くの疾患の通電治療のパターンを提示して、より合理的なはり治療にしていきたいと考えています。

「**なぜ**鍼灸」は効果があるのか?